

まちのニュースは、町内の主な出来事をお知らせするページです。

まちのニュース

TOWNS NEWS



4/13 農業の担い手として 農業の担い手として

農業振興公社が運営する「まくべつ農村アカデミー」の第17期入校式が、農業担い手支援センターで開かれ、農業関係者ら約30人が出席しました。アカデミーには、地域の中核となる農業者を対象としたリーダーコースや新規学卒者など後継者を対象としたニューファーマーコース、農業を学びたい人たちの短期農業体験の各コースがあり、14人が入校しました。岡田町長

は「情熱と夢を持ち、地域の農業振興に活躍してほしい。切磋琢磨できる仲間づくりにも励んでいただき」と激励の言葉を述べました。

過去の災害を教訓に

3/30 役場3階応接室

町では、大規模な災害で多くの死者が出た場合、遺体の搬送などを含めた支援活動が、スムーズに行えることを目的に、全国霊柩自動車協会と「災害時の支援に関する協定」を結びました。岡田町長は「災害が無いことが一番良いが、万が一の備えも必要」と話していました。



沿道に並ぶ交通安全の旗

4/10・11 交通安全街頭啓発

交通安全指導員のみなさんや地域の方々による交通安全の街頭啓発が、町内の各小学校で行われました。

参加者は、新入学児童の登校に合わせて、「交通安全」と書かれた旗を振り、安全な登校を呼びかけていました。

踏み出す大きな一歩

4/11 百年記念ホール

障害者の自立支援を手助けしていたNPO法人「手をつなぐ親の会」が社会福祉法人「ひまわり」に移行しました。理事長を務める宮澤さんは「他の事業所などと協力し合いながら、障害者のためになる事業を展開したい。ひまわりの種を大切に育てたい」と決意を語りました。



学び続ける意識を高く

4/11 町民会館

高齢者学級「しらかば大学」の入学式が町民会館で開かれ、今年度の新入生14人が生涯学び続けることを誓いました。

新入生らは、民謡や硬筆・毛筆、園芸、軽スポーツなどの専門科目と、講演などを聴く教養科目を4年間学びます。

大きくなって帰って来い

4/14 札内福祉センター

体験を通して地域の文化や自然、歴史を学ぶジュニアスクールの開講式が開かれました。

町内の小学校5・6年生児童が、史跡巡りやソバ打ちなど年間通して体験します。

開講式終了後は、途別川に場所を移し、サケの稚魚1000匹を放流しました。



農村ステイを満喫！

3/18・19 糠内小学校

農業を体験し生産現場への理解を育む「農村ホームステイ」事業が行われ、苫小牧市立啓明中学校生徒36人が、町内15戸の農家で1泊の農業体験に臨みました。中学生らは「トラクターに乗せてもらったのが思い出。また幕別町に来たい」などと話していました。

パオズルーム講演会

3/28 アルコ236

(株)ノースプロダクション代表近江正隆^{おうみ}氏を講師に招き、地域活性化についての講演会が開催されました。

「教えられたこと・伝えたいこと」をテーマとしたさまざまな事例の説明に、参加者は地域の魅力の伝え方などを学びました。



親子でミニ発掘体験

3/31 ナウマン象記念館

ミニ発掘体験教室が開催され、町内の小学生とその親、約50組が参加しました。

教室では、棒やハケを使い、石膏の塊の中に埋められている化石やクリスタル^{せつこう}の発掘体験をしました。化石などが現れると子どもたちは目を輝かせ、慎重に掘り出していました。

交通安全の願いを込めて

4/6 忠類小学校

忠類地域のボランティアグループ「五人会」が忠類小学校の新入学児童15人への記念品を千葉小学校長に手渡しました。

このプレゼントは、五人会が子どもたちの交通安全を願って毎年贈っているもので、今年は手作りの小物入れを贈りました。



親子象のマフラー

4/9 ナウマン象記念館

春を迎え、ナウマン象記念館前のナウマン親子像に巻かれたマフラーがひとまず役目を終えてはざされました。冬の寒さから親子像を守ってくれたこのマフラーは、一度忠類系紡ぎグループにより補修され、冬が来るまでの間ナウマン象記念館で展示されています。



笑顔ピカピカ新1年生

4月9日、町内全ての小学校で入学式が行われ、250人の新1年生が笑顔を輝かせて学校生活のスタートを切りました。

在校児童や保護者の拍手に迎えられ、元気良く体育館に入場。在校児童を目の前に、少し緊張していましたが、名前を呼ばれると「はい」と大きな声で返事をしていました。

